

〒183-0034 東京都府中市住吉町 4-47-16

Tel/Fax 042-354-3044

E-Mail [fuchu\\_nakagawara\\_church@hotmail.com](mailto:fuchu_nakagawara_church@hotmail.com)

HP <https://www.fuchu-nakagawara-church.com>

## 牧会書簡／小会だより／ 日々の祈り

### 2020年5月31日（第十報）

東京都を含む全国の外出自粛要請が解除されるなか、教会は、高齢の方が  
多い教会の現状に鑑み、さらに2週間様子を見て判断することを決めました。  
ここに、このたびの措置についてお知らせする書簡と小会だより、および離れた地  
で共に思いをよせたい日々の祈りの第十報をお届けしますので、ご確認ください。  
待ち望んだ聖霊降臨日（ペンテコステ）を迎えるにあたり、使徒言行録2  
章でペトロが引用した詩編16篇に基づく礼拝説教も、最後となります（礼拝  
式文・説教原稿は第五報をご覧ください）。このみことばに共に聴くことから始ま  
る一週間、それぞれの生活は、それぞれに整えられていきますが、いずれにしま  
しても、主をかしらとする教会の、霊肉の分離しない命の共同体としての一致を求  
め、聖霊の導きにすべてを委ねて歩みたいと願っています。

# 目次

## 目次

牧会書簡（10）敬愛する皆様へ～さらに2週間礼拝休止を続けます	1
<u>小会だより（簡略版 付 礼拝等休止継続を知らせる議長書簡）</u>	<u>5</u>
日々の祈り「恵み深い主に感謝せよ、慈しみはとこしえに」	7

# 牧会書簡（10）

## 敬愛する皆さまへ

～さらに二週間、個々の祈りを集めつつも、教会堂における礼拝等の休止は、これを継続します。

主の御名を讃美いたします。

会員のみなさまには、長老からのお電話をとおしてご連絡しましたが、当教会による外出自粛のお願いと、それに伴う教会堂での礼拝・祈祷会等の休止措置は、政府や都、各自治体とは独立し、群れの置かれた状況に鑑みて、すくなくとも6月7日（日）までこのまま継続することが、小会で決議されました。お電話のほかにも、メールアドレスをお知らせくださっている皆様に、本書簡の終わりに付した文章をお送りし、ホームページ上で公開しているとおりです。

## 対面でなく聖餐の行われぬ礼拝には、確かに欠けがあること

なお、なぜすぐに礼拝を再開しないのか、疑問に思われる方も多いのではないかと想像しています。とくに、礼拝は私たちの「生命線」だということが、いよいよ明らかになったはずなのに、なぜ、なお命をかけてでも守るべき神礼拝を閉じたままているのだろう。教会とはエクレシア、つまり「集まり」の本質をもつ共同体ではなかったか、と。そうおっしゃる方は、集まることのかなわぬ現状における、オンラインや文書による家庭礼拝に、当然感じるべき欠けを覚えておられる方だと思います。たしかに、動画による礼拝にはとくに「対面性」や「共同体の身体性」の具体的な知覚が欠けているように思われます。もちろん、距離をこえて、私たちが肉体をもって家庭礼拝をし、その肉体が霊において結ばれているのですから、広い意味では私たちは具体的な「主のからだなる共同体」に、このような状況でも連なっていることは覚えておられるはずです。しかし、府中中河原教会のオンライン礼拝は、技術的な問題があってライブではありませんし、子どもたちをはじめ礼拝出席者の顔が見えず、新しい来会者と空間を共有できず、なにより聖餐が目下行われていません。欠けを覚えて当然だと言わざるをえません——私たちの教派では、たとえばあるアメリカの改革教会のように、オンラインの聖餐を臨時的に認めるという全体的な一定の同意に至るまでの議論がまだできておらず、当教会では聖餐をオンラインではしないことを

## 牧会書簡（10）

申し合わせました——。ですから、この度の礼拝休止措置延長に関する疑問がとけず、モヤモヤする方は、どうぞ私（牧師）や長老たちにお電話ください。あるいは、個別の牧師面会の希望をお知らせください。個別であれば、マスクを着用し、距離を保って教会堂なりお近くの公園なりでお話しすることを再開してもよいかな、と考え始めています。これから段階的には、直接対話する機会を回復することができれば、と思いますので、牧会上の必要があれば、お知らせください。お会いすれば、みなさんと同じだけ、あるいはもしかすると皆さん以上に、対面の聖餐礼拝を待ち望み、待ちきれない夜に涙して祈り、飢え渴いているのが小会メンバーであることを、肌身にふれていただけるのではないかと思います。一緒にみことばに聴き、一緒に祈るひとときを共有することは、やはり弱い私たちにとって、必要なことに違いありません。

### **しかし、私たちは目下離れても、「主をかしらとする共同体」として礼拝するのだということ**

一方で、オンライン等の礼拝によって、私たちが「共同体」としての一致の希望を新たにしていることを、やはりもう一度考えていただきたいとも思います。私自身は、聖霊降臨日に、霊肉魂の全人格において、私たちは主に結ばれた「共同体」なのだ、それは離散の状況にあっても、教会に連なり御国を仰ぐ中で、私たちの「主の御前におけるリアル」なのだ、ということが確認できると考えます。霊に結ばれているものは、例外なく、永遠の命を約束されたものとして、身体的にも結ばれている、そうではないでしょうか？ そのようにして、わたしたちは、体の復活を経た主の天来の霊と結ばれているのではないのでしょうか。御子が天に昇って御父の右に坐しておられ、いずれ再臨されるまで身体的には「再会」ができない今も、主が送ってくださる聖霊によって、わたしたちの礼拝共同体の頭はイエスであるという告白がゆるがないのと同じことだと、私は思うのです。

私たちは、コロナ禍をついにまぬかれたとしても、いずれ年を重ねる中で、病を得る可能性もあり、様々な理由で礼拝に通えなくなる現実に直面します。そのときに、たとえば文書で、あるいはオンラインで家庭礼拝をまもる。できれば、訪問聖餐があると、その礼拝での喜びは増すでしょう。しかし、そのパンを口にすることさえ難しくなるなかで、御前にすがり、教会の一人ひとり

## 牧会書簡（10）

の交わりが与えられてきたことに縋るようにして、ただすべてを主に委ね祈る日々にはどうでしょうか。そのときも私は、「主をかしらとする共同体」の一員として共に同じ御父をあおぎ、同じ御子にあがなわれ、同じ御霊に燃やされて、神の国の希望において一致できるのでなければ、「教会」とは何でしょうか。「共同体」とは何でしょうか。わたしは、その日には、対面礼拝に生きた過去の事実と、いまの祈り、そして来るべき日の神の国の礼拝が、まるで時を折りたたんで接するように結び付き、その只中で共同体の一員として主が私の肉にあらわれた贖いの印を御認めくださるといふ幻を見えています。コロナ禍は、40歳の私を、そのように、死ぬときにも変わらない礼拝共同体の一員たる希望に、目覚めさせてくれたと、私は考えております。

### 牧師が、「無自覚の（第2次）感染源」にならないために

……熱くなりました。心が高くあがったところですが、なお目下の時の流れの中で生かされて、足は府中の地についています。この場所での2週間以降の過ごし方に、お話しを戻しましょう。どのような形式の礼拝のあり方を決断するにしましても、やはり私は、牧師としても一市民としても、牧会的奉仕や社会的な命に関わる奉仕の必要を除いては、できるだけ外出は避けた生活を個人的にしばらく続けようと思っています（パソコンに座ってばかりの不健康を心配する何人かのご助言をうけ、散歩の時間は増やそうと思いますが）。

新型コロナウイルスの2次感染の可能性が未知であり、ワクチンも未開発の今の段階では、「無自覚の感染源」にならないための配慮を、それぞれの状況に応じて、最大限行う義務が残っている。とすれば、私自身は、外出を控える形でその義務を果たすことができる立ちどころに置かれている、と考えるからです。教会の規模は違うとはいえ、ドイツでは、活動再開後の礼拝の場が、すぐにクラスターの現場となってしまったと報道されています。また、教会ではありませんが、韓国でも、感染の第二派を懸念させる事例が報告されました。あれだけ徹底的に政府主導で先手を打つ感染症対策が行われた国々でそうなのですから、政府による対策が後手後手にまわり、検査数も十分ではない、そんな印象がぬぐえないこの国ではなおさら、2次感染の可能性を視野においた個人や地域の判断が重要になると思われます。私個人の判断を

## 牧会書簡（10）

申し上げることがゆるされるなら、政府発表よりも潜在的な感染者はなお多く、地域での一定の経済活動の再開後に、発症までの期間を勘案した2週間ほどの期間を置いて、その後の自分の外出自粛の度合いについて決めることにしています。みなさんも、それぞれの年齢や体調、持病の有無や経済的な現状、ご家族の様子など、さまざまな側面から、それぞれに、どれだけ外に出るか、判断なさるものと考えています。またその際、政府発の発表や、その感染対策をほめそやす一部の報道などに、良い意味での批判的な距離をおいた判断も、なされることでしょう。なお、そのような政治社会のあり方への批判的見解もふくめ、さまざまな皆様の知見を教会で共有していただくことは、私はこのような状況下では多いに必要だと思います。生きることは、すなわち、政治的なことであり、経済的なことでもあることを、感染症は剥き出しにしました。教会生活に際しても、政治や経済との関わりを結びついた生を、主の委託に応えてどう生きるかの問題として考えなければなりません。ですから、私の今の与党への批判的な立場や素人なりの政治的な判断に、ご意見やご助言がある方は、これも遠慮なくお知らせください。

### 経済的な状況からの判断という側面、そして目下の祈りと歌へ

いま、さまざまな側面から今後の生活のあり方について判断する、と書きました。なかでも経済的な側面について考えることなしに、今後の生活のあり方を決めることはできない、と。このたび私たちが社会的に共有する不安は、ウイルスそれ自体だけでなく、パンデミックを契機に露わにされた経済的な基盤の脆さに気づかされたことにも由来しています。ですから、当然のごとく、一般的に、外出自粛の制限を取り払うか否かの判断にあたっては、個々の「命」に係わる経済的な面を配慮しなければならないと思います。

神の御前に家庭礼拝が続けられる中、感謝と献身のしるしとして「奉献」され、皆さんから送金された「献金」の管理を、教会は委託されました。そこから、コロナ禍にあっても変わらない謝儀を受けて経済的な支えを受けている者として、いま、自分や他者の命のために外出しなければならない皆様のために、牧師として、どのようにお金を使うかにも関わる形で、いよいよ深い祈りの生活をしなければならないとも思います。否、牧師だけではないはずです。わたしたち

## 牧会書簡（10）

の教会は「万人祭司」の福音主義に立っています。ごいっしょに、それぞれの経済状況などにも必要な配慮をしつつ、ふさわしい執り成しの祈りへと導かれてまいりたい、その祈りの中で、具体的な生活のあり方に関わる個々の判断を重ねてまいりたいと願います——新たな感染の不安をおして店舗運営を再開したり、家族の生活のために通勤される方々、期待と不安を胸に登校準備をはじめている子どもたち、医療や介護の現場にいる方々、細やかなネットワークを巡ってあらゆる住民と接触しておられる運搬業務従事者、母国とは違う場所で不安な生活を強いられている方、収入の不足で途方に暮れる方や、その方々に寄り添うフードパントリー等の活動をおられる方々のために、教会は祈りを益々深める二週間を過ごしたいと存じます。

具体的には、小会として「日々の祈り」の手引きとなる文章をお送りしていますので、それぞれの夕に朝に、食前に、聖書の学びの前後に、ご活用くださればと存じます。さらに、礼拝説教原稿に含みいれています韻律詩篇などを歌うことに、多くの時間を費やしてください。みなさんがペンテコステに炎の舌のような聖霊を受けてうたい、その後2週間で腹から魂を震わせうたい讃美を重ねれば重ねるほど、ついに主の御前に対面してごいっしょに歌うときの喜びは大きく、感謝も増し加えられるはずです。そして、いずれの祈りの終わりにも、「主の祈り」を祈るようにしてください。この祈りにおいて、私たちのあらゆる密室の祈りも、家庭礼拝・祈祷会の祈りも、同じ御名のゆえに同じ主に聴かれていることが確信されます。

どうぞお体ご自愛ください。主の恵みと平安を心よりお祈り申し上げます。

2020年5月28日

府中中河原教会 牧師 大石周平

**小会だより（簡略版）：5月24日（日）、オンラインによる臨時小会が行われ、次頁のように教会堂における礼拝等の休止期間を延長することを決議しました。また、6月20日（土）、「こどもの居場所作り@府中」によるフードパントリーのための会場使用を承認する決議がなされました。なお、議長判断により、大会人権委員会からの「移民・難民緊急支援基金ご寄付のお願い」を、この第十報に同封しています。**

## 教会堂における礼拝等の休止期間延長について

2020年5月25日

日本キリスト教会府中中河原教会

小会議長・牧師大石周平

みなさま主の御名を讃美いたします。いかがお過ごしでしょうか。物理的に離れた場所での礼拝が続いています。この試みの時にも、思いをひとつにみことばに聴き、歌う機会が与えられていることを、何より感謝したいと存じます。

それにしましても、今後の礼拝や祈禱会等の諸活動について、どうなるのか、お知らせをお待ちくださっていた方も多いと存じます。その件につきまして、昨日、臨時小会を行い、引き続き少なくとも6月7日(日)まで休止期間を延長することを決議しましたので、ご報告いたします。

都は、経済的な配慮を大きな理由に諸段階にわけた自粛解除を進め、合わせて教育現場等も段階的に開くことになるようです(24日時点の報道による)が、経済とは異なる判断基準を必要とし、高齢の方も多い当教会では、各自治体や店舗・諸機関・諸団体とは区別される、自律した判断が求められます。そこで、私たちの教会では、今後の自粛緩和の経過や二次感染等の可能性について丁寧に見極めるため、さらに二週間、様子を見ることになりました。

活動休止に関する基本的な考えについては、牧会書簡等でこれまでお示してきたことに変更はありません。私たちにとって、霊肉の命に関わる礼拝であり、対面で行えないことへの飢え渇きが大きいことを知りつつの決断であり、大変心苦しいのですが、少なくとも、あと二週間は会堂での礼拝等の活動休止を継続します。より一層、病の方や、社会的な命に関わる労働のために普段から礼拝に通うことのできない方々の視座に立って、祈りつつ過ごしたいと存じます。その後につきましては、6月の定期小会で決議したうえで改めてお知らせします。

おもえば2015年のペンテコステから数え、府中中河原教会の現会堂は、現在地における建築5周年を迎えます。この会堂に、この地域に、1日でも早く皆さんの讃美の声が満ちますように！次に皆さまと対面するその時、いよいよ主の教会としての信と愛と希望とをもって一緒に立つことがゆるされますように。そのためにも、お会いできないこのときの、主にあって祈り合う深い一致への方向づけが大切です。どうぞご加祷ください。みなさまに、主の慰めと癒し、祝福と平安がありますように、心から祈りつつ。



## 日々の祈り～恵み深い主に感謝せよ、慈しみはとこしえに

教会による「日々の祈り」。今回は奥野玲子長老が整えてくださいました。合わせて日ごとに「主の祈り」を祈りましょう。

私たちの救い主なる主イエス・キリストの父なる神様、御名を讃美いたします。

私たち一人ひとりを造り、はかり知れない大きな愛をもって私たちを救い、生きている時も死ぬ時もあなたのものでくださっている恵みのみわざを心から感謝し、あなたをほめたたえます。

私たちは主イエス・キリストのご復活から聖霊降臨日までの日々を、それぞれ異なった場所で、しかし心はひとつにして礼拝を捧げ、祈りのうちに歩んでくることがゆるされました。心から感謝いたします。兄弟姉妹と共に会堂で礼拝を捧げ、聖餐の恵みに与ることのできない飢えと渇きの中で、旧約の詩人の言葉を胸に刻みます。詩人は歌いました。

**「わたしは絶えず主に相対しています。主は右にいまし、わたしは揺らぐことはありません。わたしの心は喜び、魂は躍ります。からだは安心して憩います。」**（詩編 16：8～9）

**「ハレルヤ。恵み深い主に感謝せよ、慈しみはとこしえに。」**（詩編 106：1）

主イエス・キリストは今も生きて私たちのためにとりなし、聖霊を送って導き守ってくださいます。私たちはその主にすべてをゆだねて信頼していますから、この不安な状況の中にあっても静かに熱心に祈り続けることがゆるされています。その幸いを感謝いたします。そしてこのような状況の中にあるからこそ、今新しい思いに気づかされています。

年進んで、病のために、あるいは心に重荷を負って、礼拝のために会堂に集うことが困難になった会員がどんなにか悲しみと寂しさを覚えているであろうということを身をもって知り、同時にどんな場所に置かれても主を礼拝することはできることを知らされています。

また、この府中の地に建てられた私たちの教会のすぐ近くに困窮しているひとり親世帯が多くあり、その人々のために愛をもって働いている方々がおられること。私たちの会堂がその支援のために用いられ始めたことも主の導きのみわざと感謝を覚えます。さらに私たちが、教会が、隣人のためにどのように仕えていくことが出来るのかを教えてください。

日本の、また世界の中でなされている愛に満ちた働きに、私たちは敬意と感謝を抱きます。

病床にある多くの方々、医療に従事しておられる方々に癒しと励ましを。学校再開に向けて多くの準備に勤しむ教師たち、心を弾ませているであろう学生や子どもたちに勇気と希望をお与えください。

以前と全く同じ生活を送ることは難しいかもしれませんが、すべてのことを統べ治めておられる主が必要な知恵を備えてくださり、み旨にかなった道を示してくださることを願い祈ります。

この祈りを愛する兄弟姉妹の祈りに合わせて、主イエス・キリストの御名によっておささげいたします。アーメン。